

オオハゲ沢

国分 勉

■山行年月日:2023年7月16日

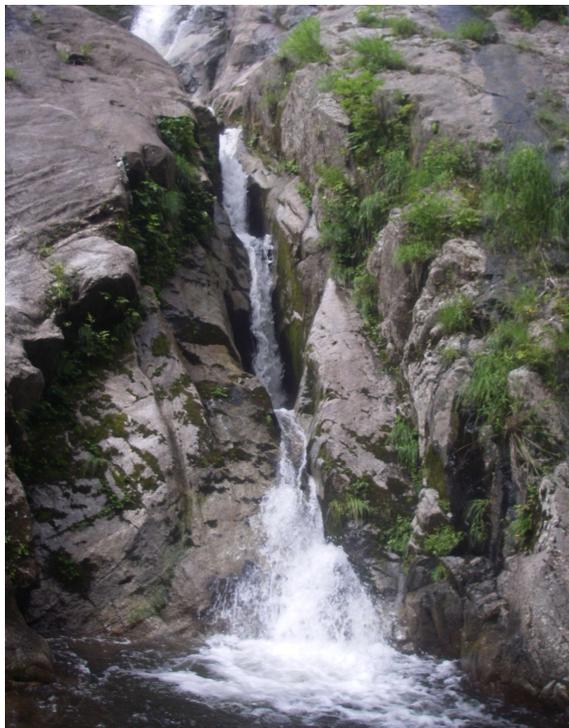
■メンバー:

AP 斎藤宇、杉崎圭洋、大出茂陽、
小沼充範

BP 国分勉、阿部満孝

当初別行動の予定だったが一緒の行動をとることになった。6時出発、すぐに幹衛さんが大イワナを釣り上げたコビキキノ滝が轟音を響かせていた。右岸を越えるとすぐに幕営適地があった。この先はゴルジュになり小滝と釜をもった溪とゴーロが続く。7時シロウ沢出合の二俣となる(6:55)。オオハゲ沢の入口には15m滝がかかっていた。シロウ沢は両岸が狭まりゴルジュの始まりの様子である。出合の滝は右岸を巻く。この先は小滝や大岩のゴーロが続く。20m2段の滝が現れる(7:40)下部は直瀑、上部はトイ状の斜瀑となっている。宇トップでロープを引く、下部はスタンスのしっかりした右壁を1段目の落ち口まで登る。上部のカンテはかなり厳しく小枝のランニングだけ、宇よく突破したと思う、セカンドでさえやっとな登った。阿部が5m程落ち肝を冷やしたが事なきを得た。さらにゴーロを進むと80mの大滝が現れた(8:50)。見上げると下部50m程が見えるが上部は全く見えない。大きな一枚岩のようで中央のルンゼを勢いよく水流が落ちている。とても岩には取り付けない。左岸の草付きの枝沢からブッシュに入ったところで阿部リタイヤ、宇がサポートで下った。ブッシュを抜け

滝の中段に出た。ここから落ち口までは40mの斜瀑、草付きとブッシュ添いに2ピッチロープを伸ばし落ち口に出た(11:00)下で待っていることもあり、ここで終了とした。2ピッチの懸垂下降とブッシュ、草付きを降りて滝下の2人と合流(12:00)例のカンテは垂直のブッシュを懸垂で降りた。あとは両岸のブッシュつかみながら下降した。オオハゲ沢は明るい溪ですが手ごたえ充分の楽しい沢でした。もう少し行ければよかったかな。大出君は使い初めのロープに魂を入れてもらったと喜んでいました。



80m大滝下部